

本校のクラブ活動の実態

筑波大学附属駒場中高等学校

小沢治夫 松井一夫 久保木清 岡村 彰
鈴木信好 笠原順路 塩谷 健 長野 東

本校のクラブ活動の実態

筑波大学附属駒場中高等学校

小沢治夫 松井一夫 久保木清 岡村 彰
鈴木信好 笠原順路 塩谷 健 長野 東

はじめに

教科外活動としてのクラブ活動は、その時間、回数、点だけからみた場合でも生徒がそこにかかわるものは学校における教育活動のなかでも大きなウエイトを占めており、クラブ活動の現状と問題点を正しく認識し、より良いクラブ活動を行わせることは大変重要なことである。

従来、関係諸学会・研究会を始めとして、全国国立大学附属高等学校連盟高等学校部会研究大会（以下全附連研究大会と略す）に於いても多くの研究が発表されてきている。^(1~13) 第1回から第23回までの全附連研究大会で発表されたものは表1の通りである。これらの研究はみな、様々な角度からクラブ活動の現状・問題点・あり方などについて深く調査されたものであり、今回我々が調査を進めていくにあたって、比較する上でも大変参考になった。なかでも、過去本校で調査した第3回大会、第13大会のものは約20年前、10年前の実態と比較することのできる貴重な資料となった。社会状況の変化とともに、生徒たちを取りまく教育環境も変化しており、同時に彼らのクラブ活動に関する考え方や取りくみ方も変わってきており最近の実態を正しく把握することも有意義なことであると考え今回は過去の資料との比較も加えながら、クラブ単位だけでなくクラブ員単位の実態調査を行い若干の検討を試みた。

表1

大会回数	年度	発表テーマ	発表校
2	35	クラブ活動とH・Rとの関連	東教大附坂戸
3	36	クラブ活動の実態調査	東教大附駒場
8	41	班活動とクラブ活動	東教大附
〃	〃	本校における特別教育活動について	お茶の水女子大附
12	45	クラブ活動の現状分析と検討	大阪教育大附天王寺
13	46	クラブ調査について	東教大駒場
14	47	クラブ活動の本質	東教大附
〃	〃	本校の部活動の現状とその問題点	東京学芸大附
〃	〃	クラブ活動の実態調査	東教大附坂戸
15	48	本校における体育クラブ夏期合同合宿について	東教大附駒場
17	50	クラブ活動の現状分析と検討	大阪教育大附天王寺
20	53	本校のクラブ(部)活動について	東京大附
22	55	クラブ活動の現状分析と検討(第三報)	大阪教育大附天王寺

方 法

筑波大学附属駒場中等高等学校の生徒、中学一年生から高校三年生までの計 840 人を対象に、クラブ活動に関するものを中心としたアンケート調査を行った。調査年月日は、昭和57年7月20日である。主な調査項目は、クラブ名、入部の動機、入部期間、活動日数・時間、クラブへの出席率、欠席の理由、クラブ内での友人関係、クラブに対する満足度、不満な点、学習状況、通学時間、クラブに対する家庭の考え、など計37項目である(資料1)。又、この他にK・H・クーバーによるエアロビクス理論⁽¹⁴⁾に基づいたクラブ別体力指数(種目別運動強度・実活動時数・万歩計による実活動量から算出)、一学期の学習成績(全科目の偏差値平均)なども調査項目とした。これらの項目のうち、体力指数、出席率、成績などの計14項目については、それぞれの間の相関係数を学年別、中高別にすべて求めた。

資料1 本校のクラブ活動に関するアンケート調査 生徒部

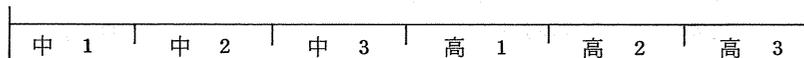
このアンケートは本校のクラブ活動の実態調査とより良いクラブ作りのため、また全国国立大学附属学校連盟の研究発表のために調査するもので、成績もしくは個人の評価などのために利用するものではありませんので率直に答えて下さい。なお、すでにクラブをやめた人は、クラブに参加していた時のことを答えて下さい。

年 組 番 氏名

1. あなたはクラブに入っていますか。番号に○印をつけて下さい。以下の問いについても同じです。
 1. 入っている。
 2. 過去入っていた。(止めた理由は?)
 3. 入っていない。(入らない理由は?)
2. クラブ名は ()
3. 中学1年から高校3年までの間にクラブに入っていた期間を→印で示して下さい。

※ 実際に入っている又は入っていた期間は 実線

※ これからいつまで続けるつもりかは 点線



4. クラブの活動日数は何日ですか。(日/週)
5. 1回あたりの活動時間はどれくらいですか。(時間 分)
6. クラブにはどのくらい出席していますか。
 1. 100% 2. 100%に近い 3. 80% 4. 50%
 5. 30% 6. 10% 7. その他()
7. 6の質問で1.2の答以外の人はクラブを休む理由は何ですか。()

8. 入部の動機は何でしたか。 ()
9. クラブとの関係で本校を選んだような理由はありますか。
()
10. あなたのクラブは友人関係(同学年)はどうですか。
1. よい 2. だいたいよい 3. あまりよくない 4. 悪い 5. その他 ()
11. あなたのクラブは先輩(卒業生は含まない)・後輩のつながりがありますか。
1. ある 2. 少しある 3. あまりない 4. まったくない 5. その他 ()
12. あなたのクラブの直接の指導はだれが行っていますか。
1. 顧問 2. コーチ 3. キャプテン又は部長 4. その他 ()
13. その指導には満足していますか。
1. 満足 2. ほぼ満足 3. 不満な点もある 4. 不満
14. 13の質問で3・4の答の人は不満な点を上げて下さい。
()
15. クラブ活動(練習)はつらいですか。
1. つらい 2. 少しつらい 3. ちょうど良い 4. 楽 5. 楽すぎる
16. この一年間にクラブ活動(練習)中ケガをしましたか。
1. しない 2. した
どんなケガですか ()
その原因は ()
クラブは休みましたか ()
17. あなたはクラブをやめたいと思ったことがありましたか。
1. ない 2. あった
その理由は ()
18. クラブ活動に関してあなたの悩みは何ですか。
(例 技術, 体力, 友人関係, 経済面, 時間など)
()
19. 部費は集めていますか。
1. いない 2. いる (月額 ()円)
20. 個人で使う用具はどんなものが必要で年間いくぐらいかかりますか。
用具() ()円位)
21. クラブの施設やその使用法については満足していますか。
1. 満足している 2. ほぼ満足 3. 不満な面もある 4. 大変不満
22. 21の質問で不満な点は何ですか。
()
23. 塾・予備校へは通っていますか。
()

24. 塾・予備校へ行っている場合、クラブの活動日とのかねあいはどうしていますか。
()
25. 自宅での学習時間は一日平均どれ位ですか。
 ○ 塾・予備校に行っている日はその時間も含めて()時間()分
 ○ " " に行っていない日、又は人()時間()分
26. 通学時間は片道何分ぐらいですか。()分
27. クラブのある日の帰宅時刻は何時ごろですか。()時()分ごろ)
28. あなたはクラブと学業とは両立していると思いますか。
 1. 両立している 2. 両立していない
29. あなたはクラブと学業とは両立するものだと思いますか。
 1. 両立する 2. 両立しない
30. あなたの家庭ではクラブに入っていることをどのように考えていますか。
 1. 大賛成 2. ほぼ賛成 3. 反対することがある 4. 大反対
31. あなたの家庭ではクラブについて具体的にはどのように言っていますか。
()
32. あなたはその様な家庭の意見・考えに対してはどのように考えていますか。
()
33. 次のうちからあなたが最も力を入れているものから順位をつけて下さい。
 1. 学校での学習 2. 家庭での学習 3. 塾・予備校での学習
 順位 () () ()
 4. クラブ活動 5. 生徒会・HR活動 6. その他
 () () ()
34. あなたのクラブの良い点は何ですか。
()
35. あなたのクラブの悪い点は何ですか。
()
36. 学校・顧問の先生に希望することは何かありますか。
()
37. その他何か述べたいことがあったら書いて下さい。
()

結果及び考察

1. 昭和57年7月20日現在の本校の在籍者数(ただし高二の5人、高一の1人の留学・病気のための休学者は含まない)運動クラブ員・学芸クラブ員の割合、アンケートの回収率は表2、各部の人数・活動場所・活動回数などは表3のごとくである。なお、同一人で運動クラブ・学芸クラブともに入部している者がいるため、中学校ではこれらの合計が100%を越えている。本校の中学校生徒会会則

ではその第35条に「会員は、一つ以上のクラブに加入し、積極的にクラブ活動を行うものとする」とされており、同様に高校生生徒自治会会則においてはその第58条に「部は会員中の希望者により構成される。原則として会員はいずれかの部に属し、積極的な活動を行なう」とされている。中学生では、部に属していない者は一年生1人、二年生1人、三年生6人（このうち4人は最近やめた）で、会則がよく守られているが、高校ではその割合が多くなり、かつ学年進行とともにその割合は増える傾向にある（表4）。その理由の主なものとしては高三の引退（43人）は別として、成績が落ちた、受験のため、体力的に無理、興味が無いなどがあげられている。これらを10年前（表5）、20年前（表6）と比べてみると、中学生では20年前のデータがないが10年前は平均92.8%であるが現在では平均97.8%でありクラブ参加率は大変よくなっている。しかし、高校生では、10年前の調査の月日が不明なので比較にはやや危険があるがクラブ参加者は高一では10年前より7%多いものの20年前より12%も少なく、高二では年とともに少なくなっており、高三では20年前の77%と比べるとわずか6%と10分の1以下に減少している。直前に引退した者の数43名を加えても37.5%であり、調査時期の差などを考慮しても明らかに少なくなっていると言えよう（図1）。この理由にはいくつかのことが考えられようが、昨今の大学入試の激戦化、共通一次入試によって入学試験時期が実質的に1カ月半程、以前に比べて早くなってしまった、これらに伴って塾・予備校に通うケースが多くなった（本校では塾・予備校等に通っている者の数は中学生で約57%、高校生では約71%（表7・表8）と以前に比べるとその数は明らかに多くなっていると考えられる）ことなどが影響しているのではないかと思われる。

表2

(%)

	在籍人数	運動クラブ員	学芸クラブ員	アンケート回答者
中一	120	89	35	99
中二	120	96	26	98
中三	120	93	15	100
全体	360	93	26	99
高一	162	63	16	96
高二	157	41	24	76
高三	161	5	2	86
全体	480	37	16	86

表4 クラブに入っているか。

(%)

		回答者数	入っている	過去入っていた	入っていない
中学	一年	119	99.2	0.8	0
	二年	118	99.2	0.8	0
	三年	120	95.0	5.0	0
	全体	357	97.8	2.2	0
高校	一年	156	82.1	11.5	6.4
	二年	128	61.7	31.3	7.0
	三年	136	5.9	85.3	8.8
	全体	420	51.2	41.4	7.4

表3

		クラブ名	部員数	活動場所	活動日
運動	中	サッカー	63	グラウンド	月 水 金
		バスケット	39	体育館	火 木 金
		バレー	19	体育館	月 水 金
		ハンド	20	グラウンド	月 水 金
		軟庭	16	テニスコート	月 水
		硬庭	55	サブグラウンド テニスコート	火 金
		野球	38	グラウンド	月 水 金
		卓球	21	卓球場	月火水木金土
		剣道	15	剣道場	月水木金
	高	水泳	24	プール	月火金土
		野山	61	山	特に決っていない
		陸上	13	グラウンド	月 水
		サッカー	24	グラウンド	月火木土
		バスケット	23	体育館	火 木 土
		バレー	13	体育館	火 水 土
		ハンド	13	グラウンド	火 水 土
		軟庭	10	テニスコート	月 水
		硬庭	21	テニスコート	木 土
		野球	19	グラウンド	火 木 土
校	卓球	12	卓球場	月火水木金土	
	剣道	8	剣道場	月水木金	
	水泳	18	プール	月火金土	
	山岳	6	山・校舎 グラウンド	火 水 金	
	陸上	25	グラウンド	月火水木金土	
	学芸	写真	15	暗室	金
		生物	20	生物実験室	木 土
		電研	15	生物実験室	土
		農芸	20	校内	木
		音楽	10	音楽器材室	月 木 土
文芸		5	2 BHR	不 定	
語学		33	LL	月 火 木	
技工		15	6 1 1室	火	
クラブ	高	物象			
		文芸	15	2 2 8室	火 か 木
		駒場棋院	15	地理室	火 木 土
		演劇	0		休 止 中
		音楽	15	音楽器材室	月 木 土
		美術	10	美術室	不 定
		物理	7	物理室	土
		化学	13	化学室	不 定 期
		生物	5	生物室	火 木 土
		農芸	10	技術室温室	月 水 土
校	写真	12	暗室	火 土	

表5 生徒在籍数とクラブ加入者数

学年	在籍数	クラブ加入者数		クラブ不参加者数	
高一	129	121	94%	8	6%
高二	124	94	76%	30	24%
高三	162	105	65%	57	35%
計	415	320	77%	95	23%

36年6月上旬生徒部調べ

表6 クラブ活動参加者・不参加者の割合

学年	調査人数	参加者数		不参加者数	
中一	112	110	98.2%	2	1.8%
中二	104	97	93.3%	7	6.7%
中三	103	89	86.4%	14	13.6%
計	319	296	92.8%	23	7.2%
高一	161	121	75.2%	40	24.8%
高二	152	106	69.7%	46	30.3%
高三	96	43	44.8%	53	55.2%
計	409	270	66.0%	139	34.0%
総計	728	566	77.7%	162	22.3%

46年生徒部調べ

表7 塾・予備校へ通っているか。(%)

		回答者数	通っていない	通っている
中 学	一年	115	59.1	40.9
	二年	112	34.8	65.2
	三年	118	33.9	66.1
	全体	345	42.6	57.4
高 校	一年	148	29.1	70.9
	二年	107	28.0	72.0
	三年	127	29.1	70.9
	全体	382	28.8	71.2

表8 塾・予備校へ行っている回数/週

%

		回答者数	1回	2回	3回	4回	行っている人の 平均回数	行っていない人 を含む平均回数
中 学	一年	48	72.9%	20.8%	4.2%	2.1%	1.36回	0.56回
	二年	71	56.3	35.2	8.5	0	1.52	0.98
	三年	77	49.4	48.1	1.3	1.3	1.55	1.02
	全体	196	57.7	36.7	4.6	1.0	1.49	0.85
高 校	一年	103	20.4	46.6	22.3	10.7	2.23	1.58
	二年	73	28.8	38.4	23.3	9.6	2.38	1.69
	三年	78	32.1	43.6	21.8	2.6	2.00	1.36
	全体	254	26.4	43.3	22.4	7.9	2.20	1.54

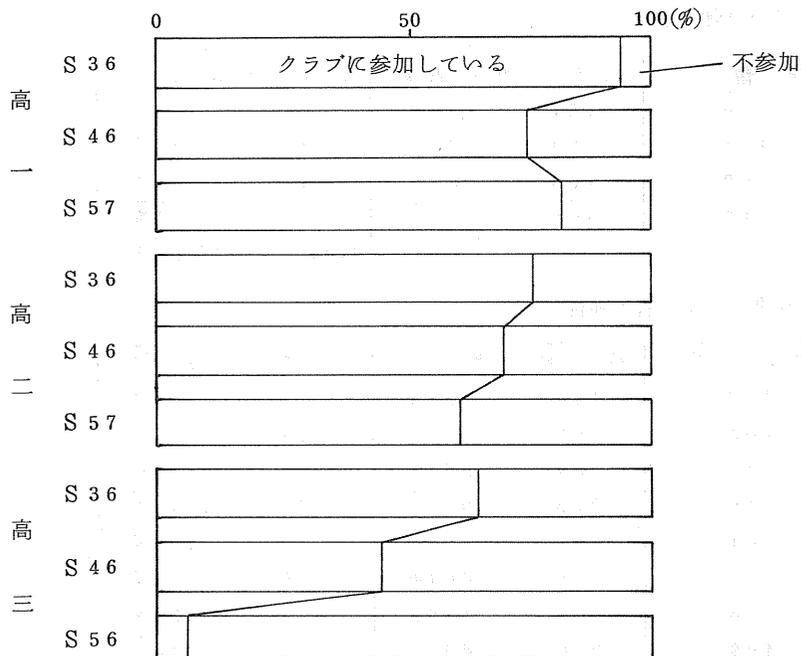


図1 クラブ活動参加者・不参加者の推移

2. クラブにはどのくらい出席していますか。という問いに対して、1.100%、2.100%に近い、3.80%、4.50%、5.30%、6.10%、7.その他 という選択肢を設けて回答させた結果は表9に示す通りである。設問に、現在クラブに所属している人のみ答えよという限定をしなかったために、入部している者の数を回答者の数が上回ってしまい、すでに退部している者も部所属時の時のことを答えている点は過去のデータと比較する上で問題があるが、これだけでみると80%以上出席している者は中一90.7%、中二86.4%、中三87.5%、中学全体で88.2%、高一72.9%、高二64.1%、高三75.2%、高校全体で74.3%であり、中高ともに比較的良好に活動しているのではないかとと思われる。ちなみに、20年前の活動状況(表10)、7年前生徒部調査によるクラブの活動状況⁽¹⁵⁾(表11)と比較しても出席率はよくなって来ている。なお、7のその他の回答のほとんどは60~70%というものであり、これらを加えて2/3以上出席している者とする中学生は90.8%、高校生は80.2%の高率となる。このような差の現れた原因は明らかではないが、著者の印象で言えば、4~5年前は幽霊部員なる言葉をよく耳にしたものであるがここ1~2年はまったくといっていいほど聞かなくなっていることから、以前より出席率が高くなっているということは言えそうである。これらのことは、前述1の結果、即ち以前より高校におけるクラブ参加者は減少の傾向にある、とあわせて考えてみると、最近の本校の高校生はクラブ活動をやらない者と、積極的に行う者との二極分解的な傾向が出ている様である。

3. クラブへの参加年限をまとめ、昭和36年時と57年時で比較したものが表12である。高三まで続けたいとする高一・高次の者は20年前に比べると多くなっているが、高三では少なくなっており、

表9 クラブへの出席率 (%)

		回答者数	100%	100%に近い	80%	50%	30%	10%	その他
中 学	一年	118	16.1	61.9	12.7	5.9	0.0	0	3.4
	二年	118	10.2	55.9	20.3	8.5	3.4	0	1.7
	三年	112	11.6	51.8	24.1	7.1	0.9	1.8	2.7
	全体	348	12.6	56.6	19.0	7.2	1.4	0.6	2.6
高 校	一年	137	7.3	40.1	25.5	15.3	5.8	2.2	3.6
	二年	95	18.9	30.5	14.7	15.8	7.4	2.1	10.5
	三年	121	7.4	45.5	22.3	15.7	3.3	0.8	5.0
	全体	353	10.5	39.4	24.4	15.6	6.8	1.7	5.9

表10 クラブ加入状況と活動状況

学年	アンケート回答者数	現在クラブに入 ってよく活動し ている者		現在クラブに入っ ているがあまり活動し ていない者		以前はクラブに入っ ていたが現在は入っ ていない者		全然クラブに入 ったことのない 者	
高一	118	73	61.9%	40	33.9%	1	0.8%	4	3.4%
高二	119	56	47.1%	34	28.6%	12	10.1%	17	14.3%
高三	130	15	11.5%	38	29.2%	63	48.5%	14	10.8%
計	367	144	39.2%	112	30.5%	76	20.7%	35	9.5%

S 36年7月中旬調べ

表11 部活動の出席率別生徒数 (高校)

出席率	数	
2/3以上	201人	71.2%
2/3未満~1/3	57人	20.3%
1/3未満	24人	8.5%

S.506 調査

先の結果と同じくクラブを早くやめる傾向がここでも現れている。また、2回の調査結果とも各学年によってその値はバラついており、その学年固有の値を示し、その学年の持つ雰囲気なり特徴なりというものがここに現れているのではないかと思われる。だとすれば、学年の担任団のクラブ活動に対する指導のあり方が大きく影響するものであり、担任のこの面への指導も重要であると言えよう。

表12 クラブへの参加年限

(%)

	S 36年調査			S 57年調査		
	高三	高二	高一	高三	高二	高一
高三まで続けた(続けたい)	37	15	30	24	56	38
高二まで続けた(続けたい)	41	64	53	50	20	48
高一まで続けた(続けたい)	10	7	14	15	14	5
不参加	12	14	3	11	10	9

4. 「あなたはクラブをやめたいと思ったことがありましたか」という問いに対して、あったとした者は中学生全体で18.4%，高校生では40.2%で、かつ中学・高校ともに学年進行とともにその数は漸増している（図2）。この理由にはいくつかのことが考えられるが、これを知るために生徒の生活状

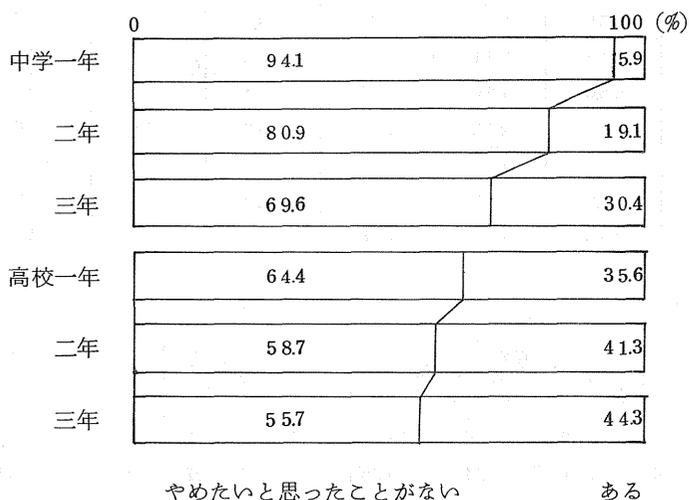


図2. クラブをやめたいと思ったことがあるか

況、クラブ・学習への取り組みの姿勢などのいくつかを調査してみた。まず「活動はつらいか」という問いに対して、つらい・少しつらいという者の合計では中学一年51.7%，中学二年53.8%，中学三年46.6%，高校一年51.8%，高校二年48.4%，高校三年46.2%と、中・高ともにほぼ50%の割合になっており、学年進行とともにその値はやや少なくなる傾向にある。また楽・楽すぎるという者は中学一年11.2%，二年11.1%，三年29.3%，高校一年18.7%，二年20.2%，三年21.4%とわずかではあるが漸増している。（表13）。これは、特に運動部では体力ができてくるとクラブへの参加の仕方・要領などがわかってくるためではないかと思われる。

表14は、1.学校での学習、2.家庭での学習、3.塾・予備校での学習、4.クラブ活動、5.生徒会・HR活動、6.その他、のうちで力を入れているものからその順位をつけなさいという質問に対して、クラブ活動に関してその順位を学年別にまとめたものである。一位又は二位と答えた者は中学では59.7%，高校では48.4%と中・高ともクラブ活動に重きをおいている生徒は約半数いると言ってよいが、学年別でみると、中一60.7%，中二64.0%，中三54.7%，高一52.3%，高二45.4%，高三45.6%と学年進行とともに漸減する傾向にある。ちなみに、一位にあげた生徒が一番多かったものは学校での学習で、その割合は中学で63.4%，高校で39.8%であった。高三ではわずか18.7%と激減しているが、これは受験の為、塾・予備校・家庭での学習に力を入れ始めたことによる（表15）。通学時間と自宅での学習時間の平均と度数分布表は表16，表17，表18の通りであるが、通学時間に片道60分以上を費やす者が中学では30.3%，高校では31.3%もいることは生徒達が部活動を行うにあたって大きな問題となっていると思われる。そこで、クラブ活動と学業の関係を調べたところ、両立していると思うと答えた者は中学72.3%、高校53.4%で（表19）、明らかに高校生では少なくなっている。

本校は中高一貫六カ年教育を実施しており、中学では入学試験がない為この様な差がでたのではないかと考えられる。又、両立すると思うかという問いに対しては、中学92.8%、高校86.0%の者が両立すると回答しており、先の現実の結果と比較するとだいぶ大きな値を示している(表20)。即ち、クラブ活動と学業は本校では両立できると考えながらも、実際には2割から3割の生徒は自分としてはそれが実行できていないと考えている様である。又、わずかずつではあるが、中学・高校ともに両立すると思うという者の数は減っている。なお、本校と地理的にも近く、また学校の性格も比較的近い学大附属高の昭和47年の調査では(第14回全附連研究大会発表)両立していると思う者、高一24.0%、高二16.4%、高三34.2%、していないと思う者、高一37.1%、高二48.7%、高三42.3%、わからないと答えた者、高一39.0%、高二35.0%、高三23.4%であり、⁽⁸⁾本校に比べると両立していると思っている者の割合は大変低くなっている。

次にクラブ活動に対する家庭の考えであるが、昭和36年調査のもの、今回の調査のものを表22、表21に示した。両調査の設問の仕方が若干異なるので単純に比較はできないが、クラブ活動を認めている家庭は中学で91.7%、高校で86.5%で、20年前の高校94%に比べるとやや少ないように思われる。しかし大賛成ということで見ると、中学生46.7%、高校生34.6%で、20年前の高校約17%に比べるとだいぶ多くなっている。しかし、今回の調査だけでみた場合、大賛成、賛成の合計は中一95.7%、中二84.5%、中三94.7%、高一88.4%、高二79.2%、高三90.4%であり、中高ともに中間学年である二年生の値が10%ほど小さい値を示しているのは、中間学年としての特徴であろうか、それともこれら学年固有の特色であろうか。

以上この項をまとめてみると、本校の生徒のクラブ活動への取り組みは比較的積極的に行われており、又家庭でもよく理解を示していることが多いが、通学時間、塾・予備校・家庭での学習などの諸々の問題との調整が学年を追ってむずかしくなっており、本人は学業とクラブ活動は両立できると考えているが、実際にはなかなかできないことも多く、これらが悩みのひとつとなっているということが言えよう。このことが、クラブをやめたいと考える大きな原因になり、又それを実行に移す者もでてくるということになっている。

5. 本校クラブのうち、特に運動クラブの一週間当りの運動量を、仮に体力指数と呼び、クラブごとに算出してみた。

算出の方法はKenneth H. Cooper が酸素摂取量を基にして考案したaerobics理論によるところの各種目の得点(その一例を表23に示す)と活動時間、活動回数⁽¹⁶⁾の積を求め、さらに本校独自に万歩計を用いて調査した実際のクラブ練習における運動量、犬塚(1981)、合屋(1981)⁽¹⁷⁾らの報告を参考に修正値を算出して求めた。用いた万歩計はヤマサ時計製NEW Manpo-Meter NM-2型であり、垂直方向への加速度0.4~0.7Gで最も正しく反応する様になっている。被験者は高校一年生の20名で、今回は人数も少なく、又各運動種目の練習内容にもバラツキがあるため、得られた値はまだ多くの検討を要するが、その平均はサッカー7800歩/時、ハンドボール3500歩/時、バスケット2800歩/時、卓球2200歩/時、野球2000歩/時、剣道1000歩/時であった。以上より求めたクラブ別、学年別体力指数は表24、表25の通りであり、中学の平均33.40、高校の平均30.66は、クーパーのいう体力を増強させるのに必要な週30得点以上は満たしており、本校

のクラブ活動は一部のクラブを除いて心肺機能に与える影響という点からは、十分な運動量の活動をしていると言えよう。

表 13 活動はつらいか

(%)

		回答者数	つらい	少しつらい	ちょうどよい	楽	楽すぎる
中 学	一年	116	8.6	43.1	37.1	8.6	2.6
	二年	117	18.8	35.0	35.0	8.5	2.6
	三年	116	16.4	30.2	24.1	18.1	11.2
	全体	349	14.6	36.1	32.1	11.7	5.4
高 校	一年	139	13.7	38.1	29.5	14.4	4.3
	二年	95	17.9	29.5	32.6	13.7	6.3
	三年	121	23.1	33.1	22.3	14.0	7.4
	全体	355	18.0	34.1	27.9	14.1	5.9

表 14 クラブ活動を何番目に力を入れているか。

(%)

		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
中 学	一年	117	17.1	43.6	23.9	12.0	2.6	0.9
	二年	114	27.2	36.8	21.1	10.5	3.5	0.9
	三年	119	26.1	28.6	21.0	20.2	2.5	1.7
	全体	350	23.4	36.3	22.0	14.3	2.9	1.1
高 校	一年	128	24.2	28.1	27.3	14.1	5.5	0.8
	二年	86	29.1	16.3	18.6	22.1	7.0	7.0
	三年	90	25.6	20.0	16.7	24.4	12.2	1.1
	全体	304	26.0	22.4	21.7	19.4	7.9	2.6

表 15 学校での学習を何番目に力を入れているか。

(%)

		回答者数	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
中 学	一年	117	67.5	21.4	7.7	2.6	0.9	0
	二年	113	61.9	25.7	10.6	0.9	0.9	0
	三年	120	60.8	18.3	10.8	9.2	0.8	0
	全体	350	63.4	21.7	9.7	4.3	0.9	0
高 校	一年	142	50.7	23.9	16.2	5.6	2.8	0.7
	二年	95	47.4	26.3	16.8	6.3	1.1	2.1
	三年	107	18.7	32.7	29.0	15.0	2.8	1.9
	全体	344	39.8	27.3	20.3	8.7	2.3	1.2

表 16

		平均通学時間(分)	自宅での平均学習時間(時間)
中 学	一年	4 6.1 4	1, 8 7 1
	二年	4 7.1 5	1, 6 6 5
	三年	4 6.4 0	1, 8 0 2
	全体	4 6.5 6	1, 7 8 2
高 校	一年	5 0.2 7	2, 0 8 6
	二年	4 9.2 9	1, 8 4 6
	三年	4 8.6 1	3, 0 2 6
	全体	4 9.4 4	2, 2 7 2

表 17 自宅での学習時間

(%)

		時間	0~	0.5~	1.0~	1.5~	2.0~	2.5~	3.0~	3.5~	4.0~	4.5~	5.0
		回答者数	0.49	0.99	1.49	1.99	2.49	2.99	3.49	3.99	4.49	4.99	以上
中 学	一年	106	0	5.7	2.1.7	1.8.9	2.8.3	1.0.4	9.4	0	4.7	0.9	0
	二年	99	0	13.1	2.9.3	1.1.1	2.3.2	1.0.1	1.0.1	2.0	1.0	0	0
	三年	107	1.9	10.3	2.6.2	7.5	2.7.1	6.5	1.7.8	0.0	1.9	0	0.9
	全体	312	0.6	9.6	2.5.6	1.2.5	2.6.3	9.0	1.2.5	0.6	2.6	0.3	0.3
高 校	一年	128	2.3	7.8	1.9.5	8.6	2.8.1	4.7	1.4.8	4.7	4.7	1.6	3.1
	二年	82	9.8	7.3	2.0.7	8.5	2.3.2	6.1	1.3.4	3.7	4.9	0.0	2.4
	三年	78	1.3	1.3	3.8	1.3	2.3.1	1.3	3.5.9	5.1	1.4.1	2.6	1.0.3
	全体	78	4.2	5.9	1.5.6	6.6	2.5.3	4.2	2.0.1	4.5	7.3	1.4	4.9

表 18 通学時間

(%)

		分	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	
		回答者数	0~9	19	29	39	49	59	69	79	89	
中 学	一年	119	0.8	2.5	5.9	1.2.6	3.3.6	1.4.3	2.2.7	5.0	1.7	0.8
	二年	116	0.9	2.6	7.8	1.0.3	2.6.7	1.7.2	2.6.7	6.0	0.9	0.9
	三年	118	1.7	5.1	4.2	1.0.2	3.0.5	5.1	1.8.6	4.2	1.7	1.7
	全体	353	1.1	3.4	5.9	1.1.0	3.0.3	1.7.8	2.2.7	5.1	1.4	1.1
高 校	一年	149	1.3	0	2.7	1.2.8	2.5.5	2.6.8	1.7.4	8.7	2.7	2.0
	二年	104	0	3.8	6.7	1.1.5	2.7.9	2.0.2	2.0.2	4.8	1.9	2.9
	三年	127	0	5.5	0.8	1.2.6	2.5.2	2.2.8	2.5.2	4.7	1.6	1.6
	全体	380	0.5	2.9	3.2	1.2.4	2.6.1	2.3.7	2.0.8	6.3	2.1	2.1

表19 クラブ活動と学業と両立していると思うか。(%)

		回答者数	両立している	両立していない
中 学	一 年	113	74.3	25.7
	二 年	113	67.3	32.7
	三 年	113	75.2	24.8
	全 体	339	72.3	27.7
高 校	一 年	128	57.0	43.0
	二 年	88	52.3	47.7
	三 年	108	50.0	50.0
	全 体	324	53.4	46.6

表20 クラブ活動と学業とは両立するものだと思うか。(%)

		回答者数	両立する	両立しない
中 学	一 年	116	97.4	2.6
	二 年	116	92.2	7.8
	三 年	116	88.8	11.2
	全 体	348	92.8	7.2
高 校	一 年	136	90.4	9.6
	二 年	97	83.5	16.5
	三 年	116	82.8	17.2
	全 体	349	86.0	14.0

表21 クラブ活動に対する家庭の考え (%)

		回答者数	大賛成	ほぼ賛成	反対することがある	大反対
中 学	一 年	118	52.5	43.2	4.2	0
	二 年	116	40.5	44.0	13.8	1.7
	三 年	113	46.9	47.8	5.3	0
	全 体	347	46.7	45.0	7.8	0.6
高 校	一 年	129	32.6	55.8	11.6	0
	二 年	91	35.2	44.0	18.7	2.2
	三 年	115	36.5	53.9	6.1	3.5
	全 体	335	34.6	51.9	11.6	1.8

表22 クラブ活動に対する家族の意見 (%)

	積極的に参加を勧めている	時限を限って参加を勧める	本人の自由意志にまかせている	参加に反対している	その他
高 一	19	8	69	1	1
高 二	13	7	75	2	1
高 三	10	5	76	2	4

S 36年生徒部調べ

表 23 各運動種目の得点

ADDITIONAL EXERCISES					
	POINTS*			POINTS*	
Fencing	10 min.	1	Skating (ice or roller)	15 min.	1
	20 min.	2		30 min.	2
	30 min.	3		60 min.	4
Football**	30 min.	3	Skiing*** (snow or water)	30 min.	3
	60 min.	6		60 min.	6
	90 min.	9		90 min.	9
Golf (No motorized carts!)	9 holes	1½	Soccer and Lacrosse**	30 min.	3
	18 holes	3		60 min.	6
				90 min.	9
Hockey	20 min.	3	Tennis (singles only)	1 set	1½
	40 min.	6		2 sets	3
	60 min.	9		3 sets	4½
	80 min.	12			
Rope Skipping (continuous)	5 min.	1½	Volleyball	15 min.	1
	10 min.	3		30 min.	2
	15 min.	4½		60 min.	4
Rowing (2 oars, 20 strokes/ min.)	6 min.	1	Wrestling	5 min.	2
	18 min.	3		10 min.	4
	36 min.	6		15 min.	6

*Points based on caloric requirements expressed in the scientific literature.

**Count only the time in which you are actively participating.

***Count only the time in which you are actively skiing.

K.H. Cooper (1968) による

表24 本校の運動クラブ
別体力指数

	クラブ名	得点
中 学	サッカー	68
	バスケット	68
	バレー	30
	ハンド	68
	軟庭	10
	硬庭	10
	野球	23
	卓球	38
	剣道	36
	水泳	10
	野山	1
高 校	陸上	8
	サッカー	77
	バスケット	68
	バレー	30
	ハンド	68
	軟庭	10
	硬庭	10
	野球	23
	卓球	38
	剣道	36
	水泳	10
山岳	10	
陸上	18	

表 25 体力指数

(%)

		回答者数	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	平均(点)
中 学	一年	119	19.3	19.3	10.1	13.4	0	0	37.8	0	35.19
	二年	114	8.8	8.8	15.8	13.2	0	0	29.8	4.4	34.97
	三年	120	16.7	16.7	5.8	2.0	0	0	27.5	0	30.15
	全体	353	15.0	15.0	10.5	15.6	0	0	31.7	1.4	33.40
高 校	一年	135	12.6	12.6	8.1	13.3	0	0	17.0	11.1	31.47
	二年	101	25.7	25.7	5.9	5.9	0	0	20.8	8.9	28.23
	三年	124	21.0	21.0	8.9	16.9	0	0	18.5	11.3	31.75
	全体	360	19.2	19.2	7.8	12.5	0	0	18.6	10.6	30.66

6. 体力指数, クラブへの出席率, 活動はつらいか, クラブをやめたいか, 塾・予備校へ通っているか, 塾予備校へ行っている回数/週, 学習時間, 通学時間, クラブと学業は両立しているか, 両立すると思うか, クラブに対する家庭の考え, 学校での学習に力を入れる順位, クラブ活動に力を入れる順位, 一学期の成績偏差値, の以上 14 項目についてはそれぞれ単相関係数により相関行列を求めた (表 26・表 27)。5%以下の危険率で有意な相関のあるものは表のごとく数多くあるが, 系数そのものとしては小さなものが多いので, ここでは寄与率 5%以上のもの, 即ち相関係数にして 0.2236 以上のものについて言及すると, まず中学生では, 体力指数の高いクラブに入っている者ほどクラブ活動が辛いと感じており, かつクラブ活動に重点を置いている傾向にある。またクラブ活動と学業とが両立すると思う者ほどクラブをやめたいとは思っておらず, クラブに力を入れている者ほど出席率が良い。成績のよい者ほど両立していると考えていることも当然の結果である。高校生では, 体力指数の高いクラブに入っている者ほどクラブ活動をつらく感じているが, クラブに重点を置いており, かつ出席率もよい。クラブ活動に重点を置いている者ほど学習時間は短い, 学習時間と成績の間には全く相関はみられない。又, 通学時間の長い者ほど塾・予備校に行く回数が多い傾向がみられるが, これは特に高校二年生に特に強く ($r = 0.791 : P < 0.01$), 一年生・三年生にはみられないこの学年固有の特徴であると思われる。ちなみに, 通学時間も塾・予備校に行く回数も成績とは何の相関もみられない。また, 著者が高校生を対象に行った別の調査でも, 通学時間と期末試験・特別考査 (校内模試)・S 予備校模試との間の相関は, $r = 0.004 \sim 0.057$ でいずれも有意な値は得られていない。しかし, 欠席日数や遅刻・早退の回数とは高い相関がみられた ($r = 0.438 \sim 0.563$)。今年度の本校の大学入試の結果でも, 体育の一年間の欠課時数 0 回の者は 68%の者が合格しているが, 0~1 回では 56%, 0~3 回では 47%と次第に低下し, 10 回以上では 18%, 20 回以上が 12%と極めて低くなる。又睡眠時間平均 6.77 ± 0.70 時間, 家庭での学習時間 3.11 ± 1.04 時間のあるクラス ($n = 41$) で成績との相関を求めたところ, 睡眠との相関は $r = 0.173$, 学習時間との相関は $r = 0.110$ であり, ともに有意な値を示さず無視してよいと考えられる。即ち, 生徒達にとって最も関心が深く又不安材料となる学業成績について言えば, 昔言われた様な四当五落式の睡眠時間をけずって勉強する様な生活が成績を上げるとは言い難く, 又体力を消耗する激しいクラブに入部していることが成績を下げるとも言えず, 現在の本校の生徒の平均的な生活形態であれば週 2 回から 4 回のクラブ活動と学業とは十分両立し得ると考えられる。

まとめ

昭和57年7月20日現在での、筑波大学附属駒場中学・高校の生徒に対して、クラブ活動に関するものを中心とした調査を行ったところ、以下の結論を得た。

1. クラブ参加率は中学生では98%に達しており、過去と比べても大変良くなっているが、高校生では51%と過去と比べて参加者が減少しており、かつ学年進行とともに減少している。この傾向は、入試制度の変化・生徒自身の学習方法・形態の変化などによると考えられる。
2. クラブ出席率は8割以上出ている者が、中学生で88%、高校生で74%と高校より中学の方が良いが、過去に比較すると中学・高校とも出席率は良くなっており、中学生は過去に比べ参加率・出席率の点からみてクラブ活動が活発になっており、高校では参加者はやや減っているものの活動は以前より活発になっていると言えよう。
3. クラブへの参加年限は過去より短く、早くやめる傾向にあり、ここにも入試制度の変化によると思われる現象が現れている。
4. クラブをやめたいと考えたことのある生徒は学年進行とともに漸増しており、その理由としては、学習との両立・時間的問題などを主とした様々な問題がかかわっていると考えられる。
5. 本校の運動クラブを、心肺機能に与える影響という点から評価した場合、多くのクラブは十分な運動量の活動がなされている。
6. 体力指数、学業成績、クラブに対する考え、などの計14項目について相関行列を求めたところいくつかの成果が得られたが、生徒にとって最も不安材料となる学業成績についてはクラブ活動に関して特に相関のある因子は認められなかった。

今回報告したものは調査したものの一部をまとめたもので、まだまだ不十分な点が多くあり、推論も多くなってしまったが、今後更に研究を進め、機を改めて報告してゆきたいと考えている。

参考文献

- 1) 宮坂 一：クラブ活動とHRとの相関，第2回全附連研究大会資料：1960
- 2) 石田城之助：クラブ活動の実態調査 問題点の発見と改善への道 ，第3回全附連研究大会資料：1961
- 3) 中村敏雄：班活動とクラブ活動，第8回全附連研究大会資料：1966
- 4) 野口和子：本校における特別教育活動について（第一報），第8回全附連研究大会資料：1960
- 5) 浅野浅香：クラブ活動の現状分析と検討，第12回全附連研究大会資料：1970
- 6) 大内勝夫：クラブ調査について，第13回全附連研究大会資料：1971
- 7) 中村敏雄：クラブ活動の本質，第14回全附連研究大会資料：1972
- 8) 佐藤俊夫：本校の部活動の現状とその問題点，第14回全附連研究大会資料：1972
- 9) 高橋健夫：クラブ活動の実態調査，第14回全附連研究大会資料：1972
- 10) 川畑栄一：本校における体育クラブ夏期合宿について，第15回全附連研究大会資料：1973
- 11) 本間俊宏：クラブ活動の現状分析と検討，第17回全附連研究大会資料：1975

- 12) 竹内正治：本校のクラブ(部)活動について，第20回全附連研究大会資料：1978
- 13) 岩城一郎・高木正喬：クラブ活動の現状分析と検討(第三報)，第22回全附連研究大会資料：1980
- 14) Kenneth H. Cooper : aerobics , BANTAM BOOKS : 1968
- 15) 岡本忠篤・大道 明・岡村 彰ほか：生徒の同好会活動をどうとらえるか 部活動と関連して 東京教育大学附属駒場中等学校研究報告, Vol.15・16, 20-21:1976
- 16) 犬塚信也・榎原純一・石河秋実・杉浦順一：授業における運動「量」と「質」について 万歩計利用による本校体育実技の一考案 , 第23回全附連研究大会資料：1981
- 17) 合屋十四秋・天野義裕・米田吉孝ほか：万歩計利用による大学一般体育実技の運動の「質」と「量」の検討，日本体育学会第23回大会号，771：1981